

～ 地域ぐるみの安全・安心 ～

『地域の防災と災害時避難所について』

\* 備えあれば憂いなし \*

平成 27 年 9 月 14 日

於 西大寺コミュニティ会館

日本防災士会 会員(70301)

西大寺学区連合町内会 副会長

防災担当 岡崎 巖

(元町町内会長 西大寺わんわんパトロール隊 隊長)

皆さんに質問します

- ① 我が家に消火器はありますか？
- ② 我が家に火災報知器を設置していますか？
- ③ ヘルメットは家族数分準備していますか？
- ④ 携帯ラジオはありますか？
- ⑤ 非常持ち出し袋を各自準備していますか？
- ⑥ 家族で災害時の連絡先を話し合っていますか？
- ⑦ 地域の一次(時)避難場所を知っていますか？
- ⑧ 地域の二次避難場所を知っていますか？
- ⑨ 地域の避難訓練等に一度でも参加されましたか？
- ⑩ 現在の町内会長・班長さんを知っていますか？
- ⑪ 近隣のお宅、10軒以上名前が言えますか？
- ⑫ 自宅に飲料水(40×4日)を準備していますか？
- ⑬ 自宅に食品(米を除く4日分)備蓄していますか？
- ⑭ 家族の携帯電話番号を入力していますか？
- ⑮ 懐中電灯は各部屋に配備していますか？
- ⑯ 何時何処でも、もしもの時を考えていますか？
- ⑰ 南海トラフ大地震が30年以内に必ず起こると思いますか？

# 備えあれば憂いなし

- ① 阪神・東日本大震災の恐怖を忘れるな!! -----すべてが「**想定外**」だった
- ② 南海トラフ大地震は必ずやってくる!! ----- その時あなたは どうする？
- ③ 「待ったなし」災いは突然やってくる!! ---- 日頃の心構えと準備が必要
- ④ 我が家の防災会議で役割分担を!! ----- 日頃からお互いに確認を
- ⑤ 鉄則「自分の命は自分で守る」!! ----- 家族は誰が守るのか
- ⑥ 家の中と家の周囲を安全チェックせよ ----- 生き延びるために
- ⑦ 寝室には大型家具を置かない----- 家具が凶器となる。圧死に注意を
- ⑧ 枕元に置いておこう----- ヘルメット・靴・ラジオ・懐中電灯・携帯電話
- ⑨ 非常持ち出し袋の確認は常日頃より ----- 家族各自それぞれがチェック
- ⑩ 水の確保は確実に ----- 飲料水・生活用水としてペットボトル 2ℓ×100 本
- ⑪ 緊急連絡先を確認しておく----- 家族の安否確認に有効 特に県外の親戚
- ⑫ 一時避難・二次避難場所の確認を ----- 一度は徒歩で行ってみるべき
- ⑬ 近所への声掛け・助け合いを怠るな ----- 高齢者、要援護者への配慮を
- ⑭ 避難所ではリーダーの指示に従いルールを厳守----- 団体生活が基本
- ⑮ 自助・共助・公助は 7;2;1 ----- 公助は 4~7 日は来ないと思え
- ⑯ 食糧品の備蓄は何でも OK ----- 食糧が無くて死んだ人はいない
- ⑰ 地域の防災訓練・避難訓練には参加しよう ---- 何よりも経験が命を救う  
(頭では分かっているけども経験してないことは、非常時には行動に移せない)

- ⑱ 防災関連情報には注意をしよう(新聞・テレビ) ----- 防災意識を高める
- ⑲ 災害時・避難時には頭を確実に守る---ヘルメットは必ず着用頭が一番弱い
- ⑳ 家族でチャレンジを -----ガス・水道・電気のない訓練を 新しい発見が

災害はいつやってくるかわかりません！

その時あなたは家族を守れますか？

そのためには自分が生き延びることです！

そのうえで大事な家族を守りましょう。

そのためには何をすべきかを考えましょう！

その時 最善の方法を!!

## ※ 地震以外の災害

津波・台風・大雨・高潮・洪水・土砂災害は事前にある程度判明します。

避難準備・避難勧告・避難指示が出た場合、避難はすべて自己責任です。各災害に対応した避難先を確認しておきましょう。「避難命令」は如何なる時も発令されません

● 避難場所と避難所は違うことへの理解を

# 防災とは『減災なり』

自然災害は完全には防げない!!

だからこそ被災した時に如何に被害を少なくするかである。それは平時の備えを如何にすべきか 「備えあれば憂いなし」

## 防災対策 3 つのキーワード

### ① 「知る」

自分の地域にはどんな災害が想定されるか

知っておく 地震・津波・高潮・火災・洪水・がけ崩れ・台風

### ② 「見る」

自分の地域の危険箇所、避難場所、避難経路を実際に見ておく

### ③ 「伝える」

危険箇所を町内会や知人に知らせる

町内会や子供会でのハザードマップ作成  
崖が崩れそう・水路が溢れそう・溜池の異変  
ブロック塀が傾いている・空き家

## 地震直後

### 安全に避難場所に行くためには

1. 避難する前に、もう一度火元の点検をする。
2. 電化器具のコンセントを全部抜いておく  
最善 → ブレーカを落としておく
3. 避難先や安否情報を書いたメモを残す
4. 安全な服装 頭や手足の保護も忘れずに
5. 携帯品は必要最低限にとどめる

懐中電灯・携帯ラジオ・非常食・飲料水・タオル・筆記用具

貴重品(現金 通帳など)

乳幼児がいる場合は別途考慮

6. 車は使わず、徒歩で避難
7. お年寄りや子供は手をしっかり握る  
お 押さない    は 走らない    し しゃべらない    も 戻らない
8. 塀ぎわや狭い道、ガケ・川の傍はできるだけ避ける
9. できるだけ指定された避難場所へ避難する

避難勧告・避難指示が出た時はもちろんですが、津波や山崩れ、家屋の倒や火災などの危険があるときは、直ちに安全な場所に避難しなければなりません。ブロック塀や電柱の倒壊、屋根瓦等の落下にも注意が必要です。

「避難コースをあらかじめ徒歩で下見し危険個所のチェックを」

子供の健全育成に向けた大人の生活信条

## 「おかやまっ子を育む 大人の八か条」

～大人が変われば子供も変わる～

子供たちの手本となるような大人の姿、また大人が子供にかかわるときに留意したいことなどを県民の皆さんからの提案をもとに、8箇条にまとめました。子供は岡山の宝。子供と一緒に大人も自らの生活を振り返り、輝くおかやまっ子を育てていきましょう。

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| ① 生活リズム    | 早く起き 子どものために 朝ごはん   |
| ② あいさつ     | 気持ちいい 朝のあいさつ 大人から   |
| ③ ルール・マナー  | 教えよう やっていいこと 悪いこと   |
| ④ 感謝の気持ち   | 「ありがとう」「ごめんなさい」を大切に |
| ⑤ 子どもへの関わり | 手を止めて 顔見て聴こう 子の話    |
| ⑥ しつけ      | 心からしっかり褒めて きちんと叱る   |
| ⑦ 子どもの見守り  | どの子にも 地域みんなで 声掛けを   |
| ⑧ 地域との関わり  | 参加して 深める絆 地域の輪      |

岡山県・岡山県教育委員会・岡山県警察

青少年問題を考え 行動する 100人委員会

## 避難所

### ■ 避難所生活のマナーとルール

- ① ゆずり合い・支え合いの心で生活しましょう。
- ② 共同生活の和を乱さないように決められた事を守りましょう。
- ③ お互いのプライバシーを尊重し、むやみに他人の場所に立ち入らないようにしましょう。
- ④ 室内は原則として火気厳禁・禁煙です。
- ⑤ トイレは最も密接な共有施設です。汚してしまったら自分できれいにしましょう。
- ⑥ ゴミの分別収集を徹底し集積場は清潔に保つ。
- ⑦ 介護が必要な方は、原則として家族で介護を行ってください。 移送検討 → 要支援者台帳に登録を。
- ⑧ お年寄りや身体の不自由な方、乳幼児を抱えた方など要支援者への気配りを心がけてください。
- ⑨ 救援物資の配給は秩序ある配分を心がけ、要支援者を優先して配給しましょう。
- ⑩ 避難所から別の場所へ移動する際、必ず避難所運営者に声掛けをしましょう。

## ■ 避難所での子どもへの対応

- ① 運動をさせてあげる。
- ② スポーツを教えてあげる。
- ③ 鬼ごっこなどで走らせてあげる。
- ④ 好きなことをさせてあげる。
- ⑤ 本を読み聞かせてあげる。
- ⑥ 好きな絵を描かせてあげる。
- ⑦ お手伝いをさせてあげる。
- ⑧ 料理を手伝わせてあげる。
- ⑨ 掃除をさせてあげる。
- ⑩ 一緒に遊んであげる。

災害に出会った子どもは、何が起きているのか判らず、自分から SOS を発信できない。避難所において、そばに親がいない子どもはすべて

「要保護状態」であり、親が発見できるまで見守る必要がある。この人のそばにいれば大丈夫だと感じるることができる大人がずっと付いてあげることが災害時の子どもの「心のケア」であり最重要事項である。